

独立監査人の監査報告書

平成30年7月26日

四国電力株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川合弘泰	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	久保誉一	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	樋野智也	Ⓜ

当監査法人は、みなし小売電気事業者部門別収支計算規則（平成28年 経済産業省令第45号）（以下「部門別収支計算規則」という。）第3条の規定に基づき、四国電力株式会社の第94期事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の部門別収支計算書及びその注記（以下「計算書」という。）について監査を行った。

計算書に対する経営者の責任

経営者の責任は、部門別収支計算規則第2条第1項、第2項及び第3項に準拠して計算書を作成することにある。また、計算書の作成に当たり適用される財務報告の枠組みが状況に照らして受入可能なものであるかどうかについて判断することにある。経営者の責任には、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書の作成に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め計算書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書が、すべての重要な点において、部門別収支計算規則第2条第1項、第2項及び第3項に準拠して作成されているものと認める。

計算書の作成の基礎

計算書の注2及び注3に記載されているとおり、計算書は、四国電力株式会社が部門別収支計算規則第4条の定めにより、経済産業大臣に提出するために、部門別収支計算規則第2条第1項、第2項及び第3項に準拠して作成されており、したがって、それ以外の目的には適合しないことがある。当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

その他の事項

四国電力株式会社は、上記の計算書のほかに、平成30年3月31日をもって終了する事業年度について、会社法及び金融商品取引法の規定に基づき我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠した計算書類及びその附属明細書並びに財務諸表をそれぞれ作成しており、当監査法人は、これらに対して平成30年5月11日（会社法監査）及び平成30年6月27日（金融商品取引法監査）に別途、監査報告書を発行している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上